

雑誌の刊行と記事索引 — NDL ONLINE による検索 —

遠山 潤

Publication and Article Index of Journals: Retrieval with NDL ONLINE

Jun TOHYAMA

【要約】2018年1月5日、国立国会図書館は蔵書検索用NDL-OPACをNDL ONLINEへ切り替えた。国立国会図書館所蔵の冊子体資料に加えデジタルコンテンツをあわせて検索できるサービスである。この変化により雑誌掲載記事の書誌情報へのアクセス性はどうか変わったのかという問いを立て、NDL ONLINEについて調査した。その結果、雑誌に掲載された記事の書誌情報へのアクセス性は従来の雑誌記事索引の採録範囲の欠落を補完する形で拡大されていることが確認できた。同時に、デジタル化作業が途中までしか進んでいない、簡易検索テキストボックス以外でデジタル化された雑誌の目次情報が検索できない、用語の排他性が明確でない、刊行と所蔵の違いはこれまでどおり存在する、という課題点が明らかになった。

【キーワード】雑誌記事索引、国立国会図書館、NDL ONLINE、NDL-OPAC、デジタルコレクション、目次情報

1. 目的

2018年1月5日、国立国会図書館はNDL ONLINE（国立国会図書館オンライン）の提供を開始した。国立国会図書館の蔵書検索用NDL-OPACに代わるもので、検索対象は従来の蔵書に加え国立国会図書館で利用可能なデジタルコンテンツをあわせて検索することができるようになった。

同年2月12日、国立国会図書館と国際子ども図書館のWebサイトが、ユーザビリティとアクセシビリティに配慮しデザインや構造をより使いやすく見やすい形に変更する目的でリニューアルされた。

本稿は、この二つの変更を受けて「雑誌掲載記事の書誌情報へのアクセス性は変更前とどうか変わったのか」という問いを立て、NDL ONLINEについて調査した結果を報告する。調査期間は2018年2月1日から2018年2月28日である。

2. 経過

2.1 NDL ONLINE

まず、NDL ONLINEの詳細検索画面の全体的な仕組みについて見る。詳細検索画面の「資料種別」で「雑誌記事」を選んだときの画面が図1である。



図 1

- ① 「資料種別」に表示されている10通りの選択肢の中で「その他」はプルダウンメニューによりさらに15通りに細分される。
- ② 「資料形態」をクリックするとプルダウンメニューが現れる。選択肢は次の6通りである。
指定なし 冊子体 マイクロ CD/DVD-ROM オンライン その他
- ③ 「データベース」をクリックするとプルダウンメニューが現れる。選択肢は次の6通りである。
指定なし 国立国会図書館蔵書 NDL 雑誌記事索引 NDL デジタルコレクション
NDL デジタルコレクション (電子書籍・電子雑誌) 電子ブック・電子ジャーナル

「資料種別」を「雑誌」にした状態で、各「資料形態」と各「データベース」を組み合わせ、検索した結果の件数は表1のとおりである。

表 1：資料種別「雑誌」

データベース	資料形態					
	冊子体	マイクロ	CD/ DVD-ROM	オンライン	その他	指定なし
国立国会図書館蔵書	212076	18592	2193	17259	76	239726
NDL 雑誌記事索引	×	×	×	×	×	×
NDL デジタルコレクション	13441	687	×	1325616	×	1325616
NDL デジタルコレクション (電子書籍・電子雑誌)	×	×	×	×	×	×
電子ブック・電子ジャーナル	×	×	×	80756	×	80756
指定なし	215734	18592	2193	1409503	76	1631970

(2018.2.6現在 ×は0件)

「資料種別」を「雑誌記事」にした状態で、各「資料形態」と各「データベース」を組み合わせ、検索した結果の件数は表2のとおりである。

表 2：資料種別「雑誌記事」

資料形態	冊子体	マイクロ	CD/ DVD-ROM	オンライン	その他	指定なし
データベース						
国立国会図書館蔵書	×	×	×	×	×	×
NDL 雑誌記事索引	12744133	×	×	×	×	12744133
NDL デジタルコレクション	×	×	×	1820	×	1820
NDL デジタルコレクション (電子書籍・電子雑誌)	×	×	×	748626	×	748626
電子ブック・電子ジャーナル	×	×	×	×	×	×
指定なし	12744133	×	×	750446	×	13494579

(2018.2.6現在 ×は0件)

表 1 に関しては、「指定なし」は各指定条件の総和として機能していない。つまり複数の資料形態やデータベースにデータ件数が有る時の件数の総計は「指定なし」よりも多い。また、資料形態「マイクロ」に指定するとデータベース「国立国会図書館蔵書」と「指定なし」が同数であり、データベース「NDL デジタルコレクション」に指定すると資料形態「オンライン」と「指定なし」も同数である。

データベース「NDL 雑誌記事索引」について見ると、表 1 資料種別「雑誌」ではすべての資料形態でデータを持たないが、表 2 資料種別「記事索引」では資料形態「冊子体」だけにデータを持っている。同様に、データベース「NDL デジタルコレクション（電子書籍・電子雑誌）」について見ると、表 1 資料種別「雑誌」ではすべての資料形態でデータを持たないが、表 2 資料種別「雑誌記事」では資料形態「オンライン」だけにデータを持っている。

以上から、NDL ONLINE を使った雑誌記事については、冊子体の場合はデータベース「NDL 雑誌記事索引」、オンラインの場合はデータベース「NDL デジタルコレクション」「NDL デジタルコレクション（電子書籍・電子雑誌）」を見ていけばよいことがわかる。

2.2 NDL 雑誌記事索引

国立国会図書館 Web サイトにある「雑誌記事索引採録誌一覧」は NDL-OPAC の時から継続しているもので、表 2 にある冊子体の記事索引の現況がわかるものである（雑誌記事が索引化されていることを国立国会図書館では「採録」と称している）。

この「雑誌記事索引採録誌一覧」を基に現時点での雑誌の記事索引化率について、以下の手順で作業をおこなった。

- ①採録誌一覧をテキストファイル (TSV) でダウンロードし、市販データベースソフト（ファイルメーカー Pro）に全データ（採録誌総数 23,493 誌）を取り込む。データ項目は以下のとおり。
書誌 ID、刊行状態（c：継続刊行中 d：刊行終了 u：刊行状態不明）、ISSN、分類記号、請求記号、タイトル、タイトルよみ、出版者等、刊行頻度、採録期間、採録状況（C：採録あり Q：採録中止）、雑誌種別（A：一般週刊誌 B：一般総合誌 C：大学紀要）
- ②検索条件（刊行状態 c 採録状況 C 雑誌種別 データなし）により 6949 件を抽出
検索条件（刊行状態 c 採録状況 C 雑誌種別 C）により 4060 件を抽出
両者を 1 つのファイルに統合（計 11009 件）
- ③データ項目「出版者等」を基に新規データ項目「出版開始年」を作成

データ項目「採録期間」を基に新規データ項目「採録開始年」を作成

- ④データ項目「刊行開始年」が西暦4桁に満たないデータ(513件)を除く.

513件は最も古い刊行開始年を使った検索条件(<1881)を使用して抽出

$$11009 - 513 = 10496$$

除いたデータの例 [19-] [20-] [195-] [201-]

- ⑤データ項目「採録期間」が途中で中断しているデータ(79+181=260件)を除く.

79件は最も古い採録開始年を使った検索条件(<1947)を使用して抽出

181件は最も新しい採録開始年を使った検索条件(>2018)を使用して抽出

$$10496 - 79 - 181 = 10236$$

除いたデータの例 (8):1966.10-(71):1995;(83):2001-

(通号:6)1966.03~(通号:7)1967.05;37(1)1996.06-

- ⑥刊行開始年 > 採録開始年のデータ(468件)を除く.

468件は検索条件(刊行開始年-採録開始年 > 0)を使用して抽出

$$10236 - 468 = 9768$$

上記の作業により、雑誌9768件を得た。このデータは雑誌種別「一般週刊誌」「一般総合誌」を除いた継続刊行中で現在採録中の大学紀要と大学紀要以外の学術雑誌であると見なすことが出来る。記事の索引化率を

$$(2018 - \text{採録開始年}) / (2018 - \text{刊行開始年})$$

の式で求めた結果を刊行開始年別に10年単位で集計したのが表3である。索引化率は小数点を四捨五入している。

表3

刊行開始年代	学術雑誌の誌名数 (索引化率%)	大学紀要の誌名数 (索引化率%)	学術雑誌・大学紀要の誌名数 (索引化率%)
1880	7 (53)	0 (0)	7 (53)
1890	3 (43)	3 (56)	6 (50)
1900	3 (48)	3 (63)	6 (55)
1910	16 (60)	5 (58)	21 (59)
1920	27 (70)	14 (74)	41 (71)
1930	39 (69)	17 (80)	56 (73)
1940	100 (82)	31 (92)	131 (84)
1950	327 (66)	193 (85)	520 (73)
1960	436 (57)	289 (83)	725 (67)
1970	472 (52)	286 (67)	758 (58)
1980	693 (59)	344 (64)	1037 (60)
1990	1417 (66)	693 (79)	2110 (71)
2000	1664 (91)	1067 (97)	2731 (93)
2010	1019 (95)	600 (97)	1619 (96)
計	6223 (67)	3545 (81)	9768 (72)

(注)「学術雑誌」とは雑誌種別「一般週刊誌」「一般総合誌」「大学紀要」を除いたものを指す。

「学術雑誌」「大学紀要」を合わせた全体の索引化率は72%である。「学術雑誌」より「大学紀要」の方が14%高く、各年代別に見ても1910年代を除き「大学紀要」の方が高い(1880年代は「大学紀要」の刊行自体が0)。

また、刊行開始年＝採録開始年すなわち索引化率100%の雑誌は次の割合で存在する。

学術雑誌 46% (2832/6223)

大学紀要 59% (2074/3545)

全 体 50% (4906/9768)

この結果から、継続刊行中で現在採録中の「学術雑誌」「大学紀要」の半分が刊行開始年から現在に至るまで継続的に採録されていることがわかる。逆に言えば、残り半分は刊行後一定期間が経ってから採録され始めて現在に至っていると言うことができる。

2.3 NDL デジタルコレクション

前節では冊子体の記事索引を見た。本節では表2にある資料形態「オンライン」でデータベース「NDL デジタルコレクション」「NDL デジタルコレクション (電子書籍・電子雑誌)」がどのくらい冊子体の雑誌記事索引を補っているのか、について見てみる。

まずオープンデータセット「国立国会図書館デジタルコレクション書誌情報」から3種の公開範囲(インターネット公開, 図書館送信・参加館配信, 館内限定)すべてのデータ13634件をダウンロードし、表3の雑誌9768件とISSNが一致する雑誌書誌データ1846件を取り出した。

次に、冊子体の雑誌記事索引での索引化率100%の雑誌(刊行開始年＝採録開始年)すなわち完全に記事単位でアクセスできる状態の雑誌(315件)を除き1531件とした。

1531件の書誌データには出版年という項目名でデジタル化の開始年と終了年とが

1988-09～1999-12

1989-03～2000-10

のように入っている。このデジタル化開始年を基に表3と同様の方法で雑誌記事のデジタル化率を出してみたのが表4である。なお、デジタル化終了年は1997年から2000年までの間で1531件中1336件(87%)と大半を占めているが、今後刊行中の最新号までカバーされることを想定し2018年(までデジタル化が完了したもの)と見なして算出している。

表4

刊行開始年代	学術雑誌の誌名数 (デジタル化率%)	大学紀要の誌名数 (デジタル化率%)	学術雑誌・大学紀要の誌名数 (デジタル化率%)
1880	2 (100)	0 (0)	2 (100)
1890	2 (100)	1 (100)	3 (100)
1900	1 (100)	1 (87)	2 (94)
1910	7 (97)	0 (0)	7 (97)
1920	11 (89)	2 (98)	13 (90)
1930	17 (94)	5 (92)	22 (93)
1940	41 (97)	3 (99)	44 (97)
1950	119 (93)	25 (93)	144 (93)
1960	185 (97)	40 (98)	225 (97)
1970	239 (99)	66 (98)	305 (99)
1980	321 (99)	93 (99)	414 (99)
1990	227 (100)	123 (100)	350 (100)
2000	0 (0)	0 (0)	0 (0)
2010	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	1172 (97)	359 (98)	1531 (98)

(注)「学術雑誌」とは雑誌種別「一般週刊誌」「一般総合誌」「大学紀要」を除いたものを指す。

表4を見ると、どの年代でも共に100%近いデジタル化が出来ている。デジタル化された雑誌の目次に関しては国立国会図書館 Web サイトのトップページにあるデジタルコレクションからも検索可能である。現在刊行中かつ雑誌記事索引採録中の大学紀要を含む学術雑誌の目次情報については、現在2000年あたりで止まっているデジタル化が最新号まで進めば、NDL ONLINE とデジタルコレクションの双方からほぼすべてアクセス可能になると予測される。

3. 結果

NDL-OPAC から NDL ONLINE へ変ることで、雑誌に掲載された記事の書誌情報（目次情報）へのアクセス性は従来の雑誌記事索引の採録範囲の欠落を補完する形で拡大されたことが確認できた。

今回、冊子体の調査対象は、現在刊行中かつ雑誌記事索引採録中の大学紀要を含む学術雑誌について調べたので、刊行終了や採録中止の雑誌、そして誌名変遷の継続前誌については見えていない。また、デジタルコレクションとの比較は、調査対象の冊子体雑誌と ISSN が一致する場合に絞った。デジタルコレクションには3種の公開範囲（インターネット公開、図書館送信・参加館配信、館内限定）という条件付で記事本文へアクセス可能であるが、これについてはふれず記事索引＝目次情報という書誌情報のレベルで言及した。現時点での NDL ONLINE の課題と思われる点を以下に列挙する。

第一に、デジタル化作業が2000年までしか進んでいない（表4参照）。

第二に、簡易検索テキストボックス以外ではデジタル化された雑誌の目次情報が検索できない。詳細検索で資料種別を「雑誌記事」に指定すると冊子体しか検索されず、資料種別を「すべて」とした場合も簡易検索テキストボックス以外で検索できない。

第三に、用語に明確な排他性が無いため、データベース指定の検索が実施しにくい。データベース名に「デジタル」「電子書籍」「電子雑誌」「電子ブック」「電子ジャーナル」の語彙が使われている。

第四に、デジタル化とは別の課題であるが、刊行と所蔵の違いはこれまでどおり存在する。所蔵と採録の差はデータの処理で埋められるが、国立国会図書館が雑誌の刊行途中から所蔵していたり、欠号を含む場合もある。